



女子学生キャリアデザインセンター(JCDセンター)の活動

JCDセンター
センター長 川上 善嗣

はじめに

本学には、女子学生の学生生活やキャリアアップを支援する女子学生キャリアデザインセンター(以下:JCDセンター)がある。私がJCDセンターで学生と一緒に活動を始めた2013年頃は、まだ女子学生の支援は他の工科大学では実施されておらず、先進的な取り組みであった。教育系の学会で活動報告をすると、多くの企業や大学から様々な質問をされたことがある。

その後、社会的に男女共同参画やジェンダー平等などが一般的になり、多くの企業や大学で様々な取り組みが行われている。

JCDセンターの活動は早い時期からPBL手法(Project-Based Learning)を取り入れ、具体的な課題を立てて少人数グループでプロジェクトを完遂させている。また自分を高めるための支援ではJCDセンターで実施しているテーマが全学的なキャリア教育に取り入れられているものもある。ここではJCDセンターの近年の新しい取り組みを紹介し、学生の活躍を報告する。

自分を高めるための様々なセミナー

女子学生が在学中に自分を高める活動は一般的に資格取得やビジネスマナー講座、ロールモデルの発見、キャリアについて熟考することなどが考えられ、JCDセンターでもこれらの活動は積極的に展開している。

新しい資格講座として、今年9月に「整理収納アドバイザー講習会」を実

施した。整理収納アドバイザーとは整理手法、収納手法についてアドバイスするための資格であり、プライベートや仕事にも活かせるスキルが身に着く。

また、広島県健康福祉局 子育て・少子化対策課と共同で「ライフデザイン啓発セミナー」を開催した。このセミナーは、県内初の試みであり、女子学生が就職・転職・結婚・出産・育児など、自分の将来についてポジティブに選択し、希望を持って自身のライフデザインを描くことができるようになることを目的としている。セミナーでは、「ドリームキラー」という言葉が紹介され、夢を持つ人に「無理」「無駄」「難しい」「面倒くさい」「儲からない」という5つの言葉(5M)を投げかける人であり、このドリームキラーに影響されると、自分の未来は思うように描けなくなるという。知らないうちに自分自身がドリームキラーになっていないかを考え、まずは制約を作らず夢を自由に描くことがライフデザインの第一歩であるということが伝えられ、学生たちも真剣に耳を傾けていた。私にとっても、実際の学生対応、就職指導などにおける学生への接し方を振り返り、学生の夢、希望に対するドリームサポーターとなるべきであることを感じたセミナーであった。

企業とのコラボレーション

企業と連携したプロジェクトでは食品系、建築系学科が中心となって活動している。学内のレストラン(リーフガーデン)や広島市内の企業とコラボレーションして様々な商品開発や市場調査、問題解決手法の提案を行っている。

お弁当のメニュー提案を行っているプロジェクトでは、本学食品生命科学科の調理実習施設を活用し、地元食材を使ったメニューの試作や企業へのプレゼン、試食会の実施など、実際の仕事と同じような活動を行っている。このプロジェクトでは一連のプロセスで学んだ手法をもとに、全国的な公募制のメニュー開発コンテストへ応募し、入賞する快挙を果たした。

建築系プロジェクトでは、大学近郊のマンションを女子学生ならではの視点でこだわりルームにリフォームする活動を行っている。食品系のプロジェクトと同様企画、提案のあと、採択されたプランは実物件への施工へと進む。この過程でコストを意識し、発注業務、施工工程などの調整のあと、実際の施工となる。プラン採択後のプロセスに特徴があり、学生の在学中の実績として十分に有益なものとなっている。

「メディア」にかかわる活動

当センターで実施している「メディア」にかかわるプロジェクトでは、発信する情報の収集能力の向上や、情報発信手法の習得などを目的に活動している。



JCDキャロットラジオの様子



地域貢献活動

「JCDキャロットラジオ」では、企画から台本制作、パーソナリティーまで、すべて女子学生が担当している。今年度もラジオの放送は延べ15回を超え、学生生活をはじめ様々な情報発信を行っている。

毎年2回発行する「JCDPRESS」についても、女子学生が企画・編集し、取材対象の選定から制作会社とのやりとりまで行っている。その中で、社会人として必要なチームワークやマナーを学びつつ、表現技法や読み手の気持ちを考える力を養っていく。第1面の「トップランナー」は学生自らロールモデルとなる女性を探し、直接インタビューして記事としている。その内容は大変充実したものとなっている。WEB版を本学JCDセンターのサイトから見る事ができるので、初版号から俯瞰すると学生のロールモデルの変化も感じることができる。是非一見されたい。



ペットボトルロケット教室の様子

の授業が取り入れられることが確定している。本学の情報系を学ぶ学生が講師となって、文部科学省推奨プログラミングソフトを近隣の小学生に体験してもらい、情報技術によるモノづくりの楽しさを知ってもらうことを目的に実施している。今年度は新たにプログラミングによるロボット操作を目的とした企画を実施した。今後は、競技会形式での実施など新たな展開を考えている。

最後に

本学に入学してくる女子学生は、工業大学という男子学生が多い環境の中、自分の夢を実現させるため、強い意志を持って入学してくる。このような女子学生に対して教職員は決してドリームキラーになってはいけないと考えている。JCDセンター教職員一同、日本一のドリームサポーターを目指し、今後も女子学生の在学中の実績づくり、就職活動支援を積極的、多角的に実施していく所存である。